

2024年9月25日 [人材のヒント](#)

《シリーズ》人材のヒント

女性活躍、異業界採用広がる

三井E & S造船、第一線復帰や管理職登用も



造船関連産業は男性中心の職場と捉えられがちだが、近年は育児などと両立しながら第一線で活躍する女性も徐々に出てきている。

造船エンジニアリングを手掛ける三井E & S造船では多数の女性社員が活躍中だ。特に女性社員の入社はコロナ禍以降に増加しており、管理部門で4人（うち中途入社1人）、営業部門で6人（うち中途入社3人）、技術部門で7人（うち中途入社2人）が活躍している。仕事と子育てを両立している社員も多く、育児の状況に応じて、第一線への復帰や管理職登用の道も開けており、既に実績がある。こうした活躍や中途採用の増加を支えているのが、制度の充実や積極活用、仕事と育児の両立を後押しする社内風土の醸成、リモートワークの体制整備・普及、将来のキャリア形成を含めた「柔軟な働き方」の実現だ。

営業部の小熊美香主任は、三井造船時代の2016年に入社し、玉野工場での工場営業の後、本社での営業を担当してきた。現在は育児中で、フレックス・タイム制度による時短勤務を活用して、バックオフィス業務を担当している。造船業のスケールの大きさに魅力を感じて入社し、若い頃は仕事中心の生活が当たり前と思っていたそうだが、「出産や子育てを通じて価値観が変化した。ただ、子どもが少しずつ手を離れるタイミングで、営業の第一線に戻って仕事をしたい」との思いを話す。

一般的に育児休暇取得後に第一線に復帰しづらい企業もまだまだあるが、小熊氏は将来的なキャリア形成を含めて不安はなかったそうだ。その理由について「営業部の女性の先輩がフロンランナーとして前例を作ってくれた影響が大きい」と話す。顧客訪問も多い営業部では、出産後数年は育児に重きを置いてバックオフィス業務を担当し、子育ての負担が徐々に軽くなってきた段階で第一線に復帰し、実際に課長として現在活躍している女性社員がいる。

中途採用の増加に応じた対応策も講じている。小熊氏はバックオフィス業務とともに、若手の育成・サポート業務も担当。「異業界から予備知識なしに入社してくることも多いので、業界知識の基本的な部分からOJTで育成・フォローしている」と説明する。

企画管理部総務人事グループの前原ゆう主任は今年1月に異業界から中途で入社し、現在は新卒・中途採用、内定者フォローなどの仕事を担当。育児をしながらフルタイムで勤務している。育児休暇、1時間ごとの休暇取得、フレックス・タイム勤務、入社時からの年次有給休暇の付与など仕事と子育てを両立できる体制が充実しているため、「育児中でもフルタイム勤務で働けている。特定の曜日に子どもの予定があれば、フレックス制度などを活用して送り迎えなども柔軟にできる」と話す。「制度が実際に活用されている前例があるので、気兼ねなく活用できる社内の雰囲気がある。例えば、育児休暇は女性だけでなく男性の取得にも各部とも協力的で、業務の分担・調整を行っている」と説明する。

三井E&S造船は、船舶設計・新燃料技術、自律操船・デジタルイゼーション技術をコア技術とし、ファブレスで多彩な造船エンジニアリングを手掛けている。「働きやすさに加えて、扱っている仕事の面白さも採用面での魅力になっている。“建築は地図に載る仕事、当社の仕事は教科書に載る仕事”だと思う」（前原氏）。「海事産業の魅力を伝え、女性でも活躍できる職場ということを伝えていきたい」（小熊氏）と意気込む。